

2011年(平成23年)7月11日(月曜日)

吉川さん(左)と木原さん



【愛知】ダイセー倉庫運輸(吉田憲三社長、小牧市)は、AED

ダイセー倉庫運輸

# AEDで人命救助

## トレーニングの効果実る

身ドライバーがまもなく退院するとの報告に全社あげて喜んでいる。近日中にも小牧警察署からの表彰などが検討され

ているという。事故は一か月前、同社の受け付けで伝票の受け渡しを終えトラックに戻ろうとしたドライバーが、いきなり敷地内で倒れた。その場に居合わせたジャスト便第2チームの木原誠ユニトリリーダーが、大声で「大丈夫ですか」と何度も呼びかける声が、本社と

階の吉川知弘チームリーダーの耳にも届いた。吉川リーダーが駆けつける中、ドライバーは呼吸も止まっている状態だった。社員全員がAEDのトレーニングを受けていることもあり、集まった社員らですぐに救急救命活動を開始した。吉川氏は「手が震え

ました」と振り返る。救急車が到着するまでの7分間、心臓マッサージを交代で行い続けた。AEDは2度の電気ショックを指示するほど、それだけ重い症状だった。同社は2年前に全営業所にAEDを設置。全社員がトレーニングを受け、救急救命体制を敷いている。トレーニングの内容は頭に叩き込んでいたが、現実にはマニュアル通りにはいかない。吉川氏は最後は「一歩踏み出す勇気でした」と語る。後日、消防署から病

院で意識を取り戻したことを聞いて、全員が大喜び。吉川氏は「心臓マッサージの感触が残りました。生きていてくれてとてもうれしい」と語る。同社は「昨年、会社で同様の状態と同僚が亡くなる事故に遭遇した。悲しい事故を契機に、全員の救命への意識も高まり、今回救命を救うことができた。吉田社長は「全員が出来る限りのことをしよう」と行動してくれたことがうれしかった」と語る。(戸嶋 暁)